

知的財産を活かしたオリジナル商品開発

「おいしくって ほれ茶った」

三重県立四日市商業高等学校

田中優依 早川詩乃 馬淵琴江 丸山倫子

後藤佳菜 三崎絵理香 加藤千明 菅野奈々絵

小澤麻来 杉谷友加里 前田紗緒里

1. はじめに

知的財産を活かした オリジナル商品開発

『おいしくって ほれ茶った』

～ 三重県立四日市商業高等学校～

販売実習

知的財産

3年	加藤 千 明	馬淵 琴 江
	前田 紗緒里	菅野 奈々絵
	小澤 麻 来	早川 詩 乃
	杉谷 友加里	田中 優 依
	後藤 佳 菜	
	丸山 倫 子	
	三崎 絵理香	

私たちは、課題研究の知的財産班と販売実習班の共同研究によって、独自のお茶のペットボトルを開発し、販売するプロジェクトに取り組んでいます。まだ途中経過ですが、これまでの研究成果を発表します。

(1) 先行研究のまとめ

先輩の研究では、三重県産の商品は全体的にパッケージのデザインが地味で、ネーミングがよく似ていて間違われやすいため、まだまだ認知度が低いことが分かりました。

そこで、三重の良さを活かしたユニーク商品を開発することを提案したのです。

(2) 私たちの研究計画

私たちは「地産地消」を目指し、次の計画を立てました。オリジナル商品の開発・販売計画・商品化の実現・販売実習・成果、課題の検証。今日は、オリジナル商品の開発と、販売計画までをお話したいと思います。

2. オリジナル商品の開発

お茶摘み体験

生産地を知る

自分の手で収穫

製茶過程を知る

一 心 二 葉

お茶葉に自信と誇り

(1) 三重の特産品の考察

三重、特に四日市市の特産品の中で、何を商品化したらいいのでしょうか。

私たちは伊勢茶に注目しました。お茶は私たちの日常生活でもなじみ深いものだからです。四日市の商品を宣伝して、多くの人々に知っていただくことが三重の活性化につながればと考えます。

(2) 茶摘み・製茶体験

A: 「ではさっそく商品化に取りかかりましょ。」

B: 「ちょっと待ったあ!! 伊勢茶が、どんな環境で作られているか、知ってる?」

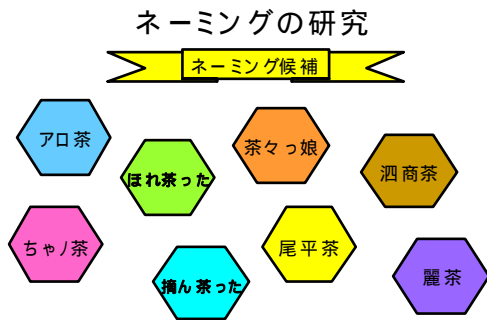
A: 「そういえば知らあん。よし、じゃあ見にいこう!」

私たちは四日市市水沢の茶畑で茶摘み体験をしました。茶畑は想像していたよりとても広く、

空気も良くてきれいでした。

生産者の方たちに教わりながら、1つ1つ丁寧に摘んでいきました。茶摘みの基本は、1本の茎に対して2枚の葉がついているものを摘む、「一芯二葉」です。摘まれた茶葉は、すぐに茶畑に隣接する工場に運ばれ製茶されます。工場はお茶の香りでいっぱい。私たちの目の前で、たくさんの茶葉が蒸し機や乾燥機の中を通過して製茶されていきました。伊勢茶は、とても良い環境で、心を込めて育てられ、製茶されているんですね。摘んだ茶葉を持ち帰り、お茶を作りました。とてもよい香りがして、おいしかったです。ぜひ、商品化し、広めたいです。

(3) ネーミングの研究



A:「お茶の中身は分かったけど、どんな商品名がええやろ？」

B:「商品名は、どこの製品にも似てない、ユニークな名前がいいよね。」

ネーミングの役割は、次の3つです。商品に注目させ、興味を持たせる。商品を魅力的なものにする。商品に対する信頼を持たせる。

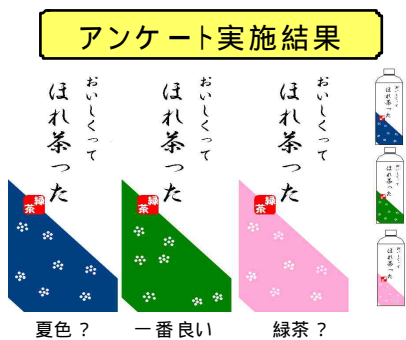
私たちは自由に商品名を書き出してみました。これらの商品名を1つ1つ、役割と総合して検討しました。消費者の注目を引き、おいしそうなイメージを与え、高校生らしさがわかる「おいしくってほれ茶った」に決定しました。この商品名に似た商品名はなかったので、私たち独自のお茶の商品名として「おいしくってほれ茶った」を講習を受けた後、特許庁へ商標出願しました。「商標登録を行う」って一見難しそうですね。でもこの商標登録は、実は私たちにもできる身近なものだったということが分かりました。

(4) デザイン案の変遷

ア 色・イメージについて

ネーミングが決まると、次にシュリンクのデザインに移りました。シュリンクとは、ペットボトルに巻きつける透明なシートで、ここに商品の名前や絵・写真、あるいは様々な記載事項を印刷します。

私たちは、まずペットボトルのデザインの傾向を知るため、収集調査を行いました。全部で185種類もの緑茶商品が集まり、その大半が緑色だったのです。私たちは、大手メーカーに、その理由を問い合わせてみました。



A:「緑茶のペットボトルパッケージは、緑色が多いのはなぜなんですか？」

B:「はい。まずパッケージは商品がどのようなものであるかのイメージをデザインします。緑色は緑茶をイメージさせる最も適した色であることから、よく使っています。」

しかし、こんなに緑色のパッケージばかりだと、商品が目立たずに、消費者の注目度も低くなるのではないのでしょうか。

私たちは、他の商品と差別化を図り、人々の注目を集めるデザインを目指して、カラーを考えました。その結果、緑茶の商品カラーとしては珍しい、紺・ピンク、そして定番カラーの緑の3つに選ばれました。

A：「3色の中で、高校生らしさがあって、ぱっと見 目立つ、ネーミングのイメージに合った色は・・・?」

B：「ピンク!!」

しかし、ピンクに決定する前に、3色の中で、どの色が好まれるか、アンケートを行いました。すると・・・意外な結果が得られたのです。

A：「紺色はどう?」

B：「夏っぽいイメージがあるで、冬は寒そうっちゃう?」

A：「じゃあピンクは?」

B：「パッケージに使うと、緑茶と色がマッチしやんで、イヤっちゃう?」

A：「じゃあやっぱり緑なん?」

B：「この3色から選ぶなら、緑がいいな。緑茶そのものの色も活かせるしね。」

そう。一番選ばれた色は、ピンクではなく、緑だったのです。

デザインの色は消費者のイメージに近いことが分かりました。それで私たちは、緑色に決めたのです。では、たくさん緑色パッケージがある中で、消費者の心をつかむパッケージはどんなものでしょうか。実は、多くの商品は、ユニークな商品名によって、他社製品との差別化を図っていたのです。消費者の心をつかむネーミングが大切な役割を持っていることを認識しました。

イ 字体・ロゴ

では、消費者にとって、どのような商品名のデザインが魅力的なのでしょうか。

そこで私たちは、字体・ロゴに注目しました。字体・ロゴが、買い手にどのようなイメージを与えるかをまとめることにしましょう。私たちは消費者に次の2つのイメージを持ってもらいたいと思います。

A：「^{わたしたち}高校生らしさを出したい!!!」

高校生らしさを出すために、丸文字や、形を崩した文字、そしてハートマークをつけたイメージ画を作成しました。しかし、これらでは緑茶のイメージがわかりませんでした。

A：「和の雰囲気を出したい!!!」

緑茶といえば、「和」です。和ならどの世代にも受け入れやすいロゴだと思います。

私たちは、2つのイメージを持った、「高校生らしさを出しつつも和風なロゴ」はどんなものだろう。と試行錯誤を重ねました。そしてやっとこの条件に合うロゴにたどりついたのです。私たちは、この緑色で、ユニークな商品名で、高校生らしく、和のイメージを持った、このデザインを採用します。早速このパッケージデザインを、ペットボトルの製造を受け持って下さる業者にお願いました。はじめに送られてきたのは、こちらのデザインです。実は私たちのイメージしたデザインとは全く違ったものでした。

それは、私たちのコミュニケーション不足が原因です。そして、電話や、直接訪問などのコミュニケーションを図ることでこのようになりました。でもこれはまだ完成ではありません。その後も推敲・修正を重ね、協議した結果、ついに納得できる、このようなデザインが完成しました。そして8月22日には、ついに商品が完成しました。いよいよ自分たちオリジナルの商品が出来上がるのだ、と、とてもわくわくしています。

シュリンク第1案



シュリンク最終案



3 販売計画・原価計算

では販売計画に移ります。お茶の製造業者の方は私たちの商品を 9,696 本作ってくださいました。

- A : 「1本いくらで売る？」
B : 「原価計算してみよっか〜。」

では、その計算方法は、まず、製品原価が 121.21 円。そしてそれに伴う営業費用が 3 つあります。1 つ目は、入出庫料。これは、商品を倉庫に出し入れする時にかかります。1 本あたり 0.83 円。2 つ目は、倉庫に保管する為の保管料です。1 本あたり 1.2 円。3 つ目は、店の飾りつけや、氷代などの販売経費です。1 本あたり 2.5 円。

全部あわせると・・・1 本の原価は、125.74 円。それで私たちは1 本の売価を、販売条件に合わせて 130 円から 150 円で設定しています。

4 オリジナル商品開発のまとめ

わたしたちが、実際に商品開発に携わって、大切と感じたことをまとめてみます。次の 4 点が挙げられます。

商品の製造過程を見ること。

販売者は、その商品の製造過程を知ることによって商品に対する自信を持つことができます。

デザインの奥深さ。

その商品の良さをアピールするためには、包装や容器のデザインも重要です。

ネーミングの難しさ。

ユニークなネーミングを生み出すには、新鮮な発想力が求められます。

商標登録。

新しく創り出した商品を守るためには、商標登録をします。

5 今後の課題

今後の課題は、販売計画に基づいた販売活動です。ポスターやビラによる宣伝。販売経費に伴う税金問題、販売地を増やし、価格の見直しによる売れ残り対策などがあります。

わたしたちは、消費者に信頼される商品をめざして販売活動を頑張ります。みなさんもぜひ、「おいしくってほれ茶った」をお飲みください！！

< ご清聴いただきありがとうございました >